



カフェ・オレンジ通信

認知症支援・介護予防センター

〒802-8560 小倉北区馬借一丁目7番1号
総合保険福祉センター（アシスト21）5F
TEL.093-522-8765 FAX.093-522-8773

第1号

平成28年4月15日
発行：認知症・草の根ネットワーク



「挨拶」 所長 富脇 幹仁
平成28年4月1日に開設された「北九州市認知症支援・介護予防センター」の宮脇です。
本市では、認知症のご本人やそのご家族の日常生活を支援し、市民や各種団体が地域で行う介護予防活動を推進していくための拠点となる施設として、総合保健福祉センター（アシスト21）の5階に当センターを開設いたしました。
当センターでは、「当事者としての思いや自線を活かした運営」を基本に認知症カフェのモデル実施、徘徊模倣訓練の開催などの支援、認知症サポーターやロコモ予防推進員などの人材育成、身近な場所で行われる介護予防活動への支援等を行ってまいります。

満開の桜の下、新しい拠点施設が産声を上げました！



開設セレモニー：「認知症支援・介護予防センター」「認知症・介護家族コールセンター」の看板が初お目見え！



認知症とともに歩んで来た高田代表。念願の拠点施設の誕生に、万感の想いが溢れる感謝のスピーチをされました。



NPO 法人老いを支える北九州家族の会、認知症・草の根ネットワーク、北九州市医師会、北九州市歯科医師会、北九州市薬剤師会、北九州市の6者が運営に関する連携協定を結びました。



来場の皆さんにカフェコーナーを体験していただきました。コーヒーとお菓子でほっと一息。お話もはずみます。♪～



当日はおよそ80名の方々の来場がありました。みんな笑顔です！



開設セレモニー当日の4月1日は、お隣の市立医療センターの桜が満開でした。

認知症・介護家族コールセンター、相談室



本日の相談員は五郎丸さんと津崎さん。
「新センターができて、少し相談件数が増えたみたいです。カフェの問い合わせもありますよ」とのこと。

電話番号：0120-142-786

受付時間：火-土曜（10-15時）

対象者：認知症のご本人やご家族等
高齢者を介護しているご家族等
相談内容：認知症や介護に関する不安や悩み

相談員：認知症介護の経験者

相談料：無料

カフェ・オレンジ（認知症カフェ）5月7日（土）10時オープン！



5月10日からは・
10-18時運営
日曜・祝祭日含
毎日やっています。



5月7日（土）、8日（日）、9日（月）
はオープニングイベントを行います。

3日間は 10-15時の運営です。

イベントタイム 13:30~14:30（予定）

○7日（土）近藤美鈴さんピアノ演奏

○8日（日）シックスティース
バンド演奏

○9日（月）赤松文雄さん

楽しいお話

どなたでもどうぞ、お越しください！
いろいろな人の参加で楽しさも、知恵も、
支援も、人の輪も広がります！

○認知症カフェ（「認知症ハンドブック」武地一編著・監訳より）

認知症の人とその家族にとって自分らしさを発揮し、社会とかわりの持てる場所であるとともに、情報交換や共感ができ、心が安らぐ場所として運営されるカフェです。専門職や研修を受けた市民ボランティアも参加し、カフェという日常的な場で、交流することを通じて、認知症への偏見をなくし認知症になっても暮らしやすい地域をつくるきっかけとなる場でもあります。

やってみよう！E・G体操

DVD-AP-3 07241025



北九州市認知症支援・介護予防センターの開設に伴い、誰もが気軽に取り組めるロコモ予防に有効な動きを取り入れた体操ができました。転倒予防効果のある「スクワット」や「片足立ち」等で構成され、90秒という短時間で気軽にできます。北九州市特命大使の芋洗坂係長が振り付けをし、九州栄養福祉大学小倉南区キャンパス副学長の橋元隆先生が監修しました。

このDVDをご希望の方は、
TEL：093-522-8765
認知症支援・介護予防センターまで
ご連絡ください。



- カフェマスター養成講座（1期）
全6回が始まります！
時間はいつでも13時〜16時
場所はカフェ・オレンジ
- ① 4月17日（日）
認知症の基本を学びましょう！
 - ② 4月20日（水）
早期発見・早期治療からMCIまで
 - ③ 4月22日（金）
認知症の人への声のかけ方
 - ④ 4月25日（月）
介護保険のこと、市のしくみ
 - ⑤ 4月28日（木）
支援を考えよう + コーヒーに関するものも楽しい情報
 - ⑥ 4月30日（土）
お口から始まる大切なこと（歯と食）
- 広めましょう！コグニサイズ
- 2期は、6月に開講予定です！

開話 休題

門司港で行われた「第1回グランドシニアシャレトシヨ」に行ってきた。方言の「しやれとんしや（おしやれね）」から命名したとのこと、66歳から96歳の男女が北九州市立大地域創生学群の学生にエスコートされて、颯爽と舞台上に登場。プロのメイクとヘアアレンジがつき、客席からの「○○さん！」という声援に手を振る様子もアットホーム。衣装は大切にしていた着物をリフォームしたり、娘さんのマタニティドレス（Aラインが素敵！）だったり、いずれも思い出がいっぱいのもの。皆飛び切りの笑顔で、見ているほうも幸せのお裾分けを頂いた。障がいがあっても、年を重ねても、人として大切にされている実感は、元気の源。来年も開催されるといいなあ。（ま）